

一週間の長時間ホルター心電図における記録日数の有用性の検討

◎長谷部 早紀¹⁾、武田 麻希¹⁾、水野 星香¹⁾、谷澤 弘規¹⁾、松枝 優佳¹⁾、永田 篤志¹⁾、舟橋 恵二¹⁾
JA 愛知厚生連 安城更生病院 臨床検査室¹⁾

【はじめに】発生頻度の低い不整脈の検出は長時間のホルター心電図が有用である。しかし皮膚トラブルなどの患者負担により、装着継続が困難になることは少なくない。当院では循環器内科医との協議により、やむを得ない場合は3日間で外してもよいこととしている。今回、適切な記録期間について検討した。

【目的】長時間ホルター心電図で、3日間の時点と7日間で不整脈イベントの検出率を比較し、3日間でも有用な検査結果が得られることを検討する。

【方法】2023年1月から2024年3月までに長時間心電図レコーダーを装着した248症例（Heartnote（JSR株式会社）：189、AF Detector（株式会社カルディオインテリジェンス）：59）を対象とした。ホルター心電図装着後3日間の群と7日間の群に分け、不整脈イベントの検出率について後ろ向きに検討した。

【結果】記録された不整脈イベントの内訳は、30秒以上持続した心房細動（AF）が40例、3秒以上の洞停止が19例、心室期外収縮（PVC）3連発以上が27例であった。各イベ

ントの7日間での検出を100%とすると、3日間ではAFが87.5%、洞停止が89.5%、PVCが70.6%検出された。群間比較ではPVC3連発以上が7日間の群で有意に高かった（ $p<0.001$ ）。しかし、他のイベントでは有意差はなかった。

【考察】AFの検出には有意差が認められなかった。当院での検査目的の大半はAFのアブレーション治療後の再発確認であったことが影響しているのではないかと考えられる。やむを得ず3日間で外してしまった場合、イベントの検出率が下がる可能性があることを医師に理解していただく必要がある。

連絡先 安城更生病院臨床検査室 0566 (75) 2111